す。私にできることは小さなことかもしれないけれど、できることをせいいっぱいやろうと思いました。このはがきをよんで少しでも、生きる勇気を、きぼうをもってほしいです。

（天満美乃里）

◇ダンスをひろうしたい

東北地方の方たちに、私たちにできることがあれば、何でもいたします。死者も多いですが、おもい病気も、のりこえてがんばってください。私は、ダンスをひろうしようかと思います。それを見て元気をだしてください。

（蔵本聖奈）

◇元気をだして

東北地方の方たち、大変ですが、がんばってください。じしんが大きくゆれて、こわかったでしょう。山ほどあるつなみが来てふるえていたでしょう。みんなおうえんしているからがんばってください。元気をだしてください。

（湯口桃華）

◇おうえんをしています

東日本のみなさんは、食りょうも少なくて大変だけど、がんばってください。おうえんをしています。

（岩本健斗）

東北から

◇不幸の後には幸福が

私のいる仙台でも、震災で電気と水とガスが止まりました。3日間それが続いただけでも、すごく大変なのに、その後も停電になっている避難所があると聞くと、すごくつらい思いをしているんだなと思いました。でも、あきらめないでください。世界中が日本に支援の手を差し伸べています。不幸の後には幸福が必ず訪れます。

（仙台市、小学生、11歳）

被災地と「絆」深めよう

仙台発チャリティーTシャツを後押し

「支援の輪広げたい」

神戸の企業「LEIS」9、10日に販売

東日本大震災で、仙台市の市民団体が始めたチャリティーTシャツとタオルの販売を、訪問医療マッサージ店運営会社「LEIS」（神戸市東灘区、レイス）が支援している。宮城県石巻市で9日ぶりに救出された高齢女性と孫の家族が、同社の店のマッサージ師だったのが縁。9、10日に神戸で開くイベント会場に持ち込み、購入を呼び掛ける。

（広岡磨璃）

全国170店をフランチャイズ展開する同社は、震災で13店が被災。仙台市泉区の店では、従業員らが避難所でのマッサージなどボランティアに奔走。その後、同店のマッサージ師阿部明さんの母と長男が救出されたことが契機となり、店のオーナーらが被災者支援の団体「ヒューマン・タイズ」を設立した。

団体はボランティア活動とともに被災者の雇用創出を目指す。Tシャツとタオルには、書家の荻野丹雪さんに書いてもらった「絆」の文字をデザインした。収益の一部は義援金と雇用創出のための準備金に充てる。

レイスは自社用にTシャツ千着などを購入。一般にも知ってもらおうと、9、10日に開かれる神戸・六甲アイランドの神戸ファッションマート内のイベントで販売する。松永力社長(50)は「神戸から支援の輪を広げたい」と話している。Tシャツ1500円、タオル千円。

チャリティーTシャツとタオルの販売に協力するレイスの社員ら＝神戸市東灘区向洋町中6

は、日弁連の災害復興支援委員長を務める永井幸寿弁護士(55)＝神戸市。

なども弁護士の無料相談会を実施し、被災者から年間10万件の相談が寄せ

「法律相談は被災者の心のケアにもつながる」と話す永井幸寿弁護士＝神戸市中央区中町通2

東日本大震災の被災者を応援する緊急メッセージを宮城県など6県と37市にメールやファクスで届けた。

メッセージでは、阪神・淡路大震災の際「全国から、